産土

彦島八幡宮社報
第 58 号

奉祝　天皇陛下御即位
皇紀弐千六百七拾九年十月二十日　御創祀八百六拾年例祭

撮影写真提供　サンカメラ（本村町6丁目）

雨過天晴雲破処
四K（感謝、謙虚、正直、希望）プラス1R（利他）で、輝しい未来を

宮司　柴田　宜夫

令和二年の清々しき新年を寿ぎ、謹んでお慶びを申し上げます。

「雨過天晴雲破処」、さて、何と読み、どのような意味なのでしょう。「うかてんせい　くもやぶれるところ」と読みます。その意味は、雨が止み、雲の隙間（すきま）からのぞいた青空の青こそ、もっとも澄み切って清々しい青だということです。私は、いかなる時も、きっと必ず、澄み切った青空を見上げることができる事を信じる、未来志向の言葉だと理解しています。

昨年の十月二十二日の「即位礼正殿の儀（そくいれいせいでんのぎ）」の映像をテレビで拝見させて頂きました。降りしきる雨が、天皇陛下が、おでましになると、雨が止み晴れ渡ったではありませんか。私は、その瞬間、この、「雨過天晴雲破処」の言葉を思い出し、感動も一入（ひとしお）でありました。この令和の時代も、希望に満ち溢れ、その希望を天皇陛下皇后陛下共々に、国民が共有できるのではないかと思わせるような、光景でありました。令和に入っても、自然災害の悲惨さ恐ろしさ、天然の無常を思い知らされています。

寺田寅彦さんは、「自然現象から逃（のが）れる事は出来ないが、注意次第で災害を軽減（けいげん）できる可能性がある」と述べられています。昨年からの私の講演でのキャッチフレーズである「四Kの敬神生活」は、今ある命に感謝をし、謙虚に自分を見つめ直し、日々の暮らしに創意工夫を心掛け、きっとよくなるという希望を持ち続けるということです。この四Kの敬神生活、寺田寅彦さんの仰（おっしゃる）るその注意次第の一つの「心がけ」になるのではないでしょうか。そして、プラス1R、「利他」を忘れてはならないと思います。孔子も、「己の欲せざるところ、人に施すなかれ」、「自分がされたくないと思うことは、人にしてはならない」と説かれました。それが、恕（じょ）という心、思いやり、利他なのです。

雨過天晴雲破処（うかてんせい　くもやぶれるところ）」、四Kプラス1Rの敬神生活で、輝かしい令和の時代でありますように、心からお祈り申し上げます。

八幡宮からのお知らせ

どんど焼き＝一月十三日(月・成人の日)【午前十時～正午まで】

※荒天の場合は一月十九日(日)に順延します。

正月飾りは、みかん・橙（だいだい）を外してご持参下さい。
執行後は来年まで受付致しませんので、予めご了承下さい。

㊟鏡餅・ビニール袋・結納品・人形・仏具・民芸品等は一切お断り致します。

彦島全島の総氏神

彦島八幡宮の由緒

◇略記

当宮は平治元年（一一五九）十月十五日、本当開拓の主祖・河野道次（こうのみちつぐ）自ら祭主となり宇佐神宮より御祭神を勧請、祭祀なされました。御祭神は應神天皇相殿に仲哀天皇　神功皇后　仁徳天皇をお祀りしております。一名灘八幡と言っただけに宮の沖合を通過する船は必ず「半帆」の札をとったと云われる事から造船、漁業関係者の崇敬が厚く、又、安産の神として別名「子安八幡」と崇められて併せて武神、文化神、生産神として御霊験あらたかな神様であります。尚、秋の例大祭「十月二十一日に近い土・日曜日」には八百六拾年伝来の無形民俗文化財「サイ上リ神事（さいあがりしんじ）」があり由緒の深さを示しております。

平成二十年には御創祀八百五十年式年大祭記念事業の一環で女優 浅野温子さんをお招きして日本神話の読み語りを執行致しました。

◇彦島十二苗祖（びょうそ）

当宮創祀者である河野通次は保元元年（一一五六）保元の乱（後白河天皇と崇徳上皇間の皇位継承問題と、藤原忠通と藤原頼長間の摂関家の内紛によって源氏と平氏を巻き込んだ権力争い）に敗れた後、園田一覚、二見右京、小川甚六、片山藤蔵、柴崎甚平を率いて彦島の地に敗走し、その二十有余年後には、植田治部、岡野将監、百合野民部、和田義信、登根金吾、富田刑部が来島して総勢十二名の将を中心に一族郎党が農耕漁釣に精を出し彦島を開拓しました。以来「彦島十二苗祖」と称えられています。

今日も末裔の方々が、「サイ上リ神事」をはじめとする伝統神事を継承されています。

◇光格殿と彦島八幡宮の発祥

保元二年（一一五七）十月のある日いつもの如く沖に出て漁をしていますと一天俄にかき曇り末甲の方角の海上に紫雲たなびき海中より日月の如く光輝く物があるのを見て、通次等は不思議な思いで網を打って引き揚げるとそれは一台の明鏡でありました。しかも鏡の裏には八幡尊像が刻まれていたのです。通次等は大いに喜び、之は我ら一族の護り本尊であると、海辺の一小島（舞子島）の榊に一旦鏡を移し、その後祠を造営して鏡を納め光格殿と命名しました。これが当八幡宮の発祥であります。又舊記に海底より光り輝く物があり河野一族等鉾にて之を突きし八幡尊像の左眼がささりて賜りたりと云々という口伝も残っております。

（戦後まもない例祭）

八幡さんの思い出写真

（平成初期のサイ上リ神事）

（平成初期の夏越祭海上渡御）

彦島八幡宮　検索

令和最初の例祭厳修

奉祝 天皇陛下御即位御大典

令和元年十月十九日～二十日

御創祀八百六十年例祭・
無形民俗文化財
「サイ上がり神事」斎行

八幡さんの春と秋

春はお花見で麗らかな気持ちに…
秋は静寂の中に紅葉を
愛で心を落ち着かせて…

宮司プレス総集編

※137号～145号（要点抜粋）を総集編としてお届けします。
全文ご覧になりたい方は八幡宮ホームページへアクセスしてください。

●第一三七号（平成三十年九月三日）

千利休の道歌

「規矩作法（きくさほう）　守りつくして　破るるとても　離るるとても　元を忘るな」

平成最後の夏の大きな災害、西日本豪雨から二月が経過しました。心からお見舞いを申し上げます。　洋の東西を問わず、あらゆる災難に人々は救いの手を差し伸べ、そして、災害時には知らない人々の為にも祈りを捧げます。私共にできるのは、「至誠則怛」、苦しく辛い立場におられる方をおもいやりつつ、特別、これ以上、悪いことが起きぬよう、災いを祓い、善、良い方向に向うように祭典の厳修を心掛けるべきかと存じます。衿を正して真心こめて、「恐れ」と「敬い」のミックスした心である「畏み」という言の葉を奏上し、一意専心、神明奉仕につとめ、祈りをささげなければと思いを新たにしています。

いまからおよそ、八百三十年ほども昔の文治元年、西暦一、一八五年の夏に畿内を襲った文治地震、きわめて激烈だったらしく、平家物語やいくつもの古典に記録が残っているそうです。そのひとつである「方丈記」に、作者の鴨長明は、「月日かさなり、年経にし後は、ことばにかけて言ひ出づる人だになし」と述べています。八百三十年後を生かされて生きている私達は、平成の歳月に起きた災禍、阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震等、枚挙に暇がありませんが、やはり、まず、「言葉にかけて」語り続けていかなければならないのではないでしょうか。　そのことが、千利休の仰った「元を忘るな」に通じるものがあると思います。　ご自愛ください。

●第一三八号（平成三十年十一月二十日）

わが国は、災禍が頻繁であり、先人達は、数千年来の災禍の試練を耐えて今日に至っているのです。そのことを、寺田寅彦さんは、「一面から見ればわが国の国民性の上に良い影響を及ぼしていることも否定しがたい」「日本国民特有のいろいろな国民性のすぐれた諸相（しょそう、すがたのこと）が作り上げられたことも事実である」と述べられています。　先人達は、大自然の恵みに感謝して、お陰様という謙虚な気持ちで、「恐れ」と「敬い」のミックスした「畏み」という心を忘れずに生活をした、まさに、国民性への良い影響、すぐれた諸相が作り上げられたのではないでしょうか。実は、寺田寅彦さんは、「ものをこわがらな過ぎたり、こわがり過ぎたりするのはやさしいが、正当にこわがることはなかなか難しい」とも述べられています。「正当にこわがる」というのは、「朝に祈り夕べに感謝」、今ある命に感謝をして前向きに生活をする、その敬神生活そのものではないでしょうか。

戦後七十三年、以前の歴史や価値観は捨てられ置き去りにされています。個人利益のあくなき追求である、「欲望主義」の時代を生きているのではないでしょうか。聖徳太子は、「背私向公」、私を捨てて公に尽くしなさいと諭されました。国の存亡にかかわる時など、「滅私奉公」が、スローガンになりました。もちろん、私たちは生きるために必死に毎日を過ごしますが、そうした中でも何か他の人に対して手を差し伸べる器量を持つことが必要だと思います。「利他」、思いやりの心を忘れず、「相互扶助」、「相互規制」、お互い助け合い支えあう、まさしく「尽私生公」を生活の大目標としたいものです。御自愛ください。

●第一三九号（平成三十年十二月六日）

皆さんは、三十年周期説なるものをご存知ですか。明治元年（一、八六八年）から、平成に至る百五十年を三十年毎に五つに区切る見方を示すものです。

この三十年周期説による歴史のサイクルがあるのかどうかわかりませんが、来年は、第六期に突入です。少子高齢化という未曾有の事態、危機的状況下におかれていて、課題克服先進国となっています。　さらに、寺田寅彦さんの仰った「天然の無常」なる深刻な自然災害に、列島は、毎年のようにさいなまれています。そのような状況のなかでも、停滞から抜け出し、新たな道のりを切り開いていかなくてはなりません。

民俗学者の柳田國男さんは、「敬神は、日本人の道徳」と仰いました。いかなるときも、「きっと、必ず、神様がお守りくださる」ことを信じる、「神信心」という、日本人の勇気ともいえる「希望」を持ち続けることが大事です。そして、その希望を共有する仲間とのつながりを深めてゆく、それこそが、「敬神生活」なのではないでしょうか。

巷では、４Ｋ放送が始まりましたが、この敬神生活のキーワードも、

「感謝、謙虚、工夫、希望」の四Ｋです。

来年は、光格天皇以来、二百年振りに天皇陛下が、御位をお譲りになる御譲位で、改元です。停滞と災害の平成の時代でしたが、安定した社会が営まれてきたのは、天皇皇后両陛下の御存在があればこそだと思います。国民こぞって、御即位三十年を心からお祝い申し上げ感謝の誠を捧げなくてはなりません。

そして、「感謝、謙虚、工夫、希望」の四Ｋという敬神生活のキーワードを道しるべとして、新しい天皇陛下の御即位と共に、新たな元号を承り、新しい時代の幕明けを迎えたいものです。

●第一四〇号（平成三十年十二月三十一日）

「平成最後の」という枕詞が、乱れ飛んだ年の瀬でもありました。いよいよ明年は、天皇陛下が御位をお譲りになりまして、二百年振りの御譲位となり、改元です。大化から始まって二百四十八番目の元号となります。明治からは、「一世一元」なのでありまして、天皇陛下が、お隠れ、崩御されますと、改元が行われるのであります。この度は、御譲位により改元なのでありまして、私共は、天皇陛下と時間を共有できるのであります。少しおおげさですが、天皇陛下と時間を共有していることの証が、「元号」といっても過言ではありません。その二百四十七ある元号で、一番長かったのは、「昭和」です。二番目は、「明治」、それでは、三番目は、「平成」かと思いきや、今から六百二十四年前の「応永」が、三十四年で三番目です。したがって、「平成」は、四番目に長い元号ということになります。一番多く使われた文字は、「永」だそうでして、いつの時代も、永久の平安や幸福の願いを元号にこめられたのでしょう。

「パクス・エドガーナ」といわれる、およそ二百八十年間の天下泰平の世の中をつくられた徳川家康公は、江戸に幕府を開いたおりに、元号を「元和」とされました。長く続いた戦乱の時代に終止符をうち、文武両道の平和な時代を願われたのです。新しい元号には、どのような願いがこめられるのでしょうか。新しい天皇陛下の初めての国事行為である、「改元の詔」を承り、新しい時代の幕明けを迎えたいと切に願っています。残念ながら、予め政府より発表されるそうですが、前述した新しい天皇陛下の御即位された後の改元が、本来の姿なのであります。

●第一四一号（平成三十一年一月二十四日）

今年は、「己亥」、全部で六十通りある干支の三十六番目の干支です。

「己」は、陰の土を表し、田や畑の土のことです。もともとは、紀（き、すじの意味）が語源です。物が形を曲げて、縮まった形でありまして、縦糸と横糸で表されていまして、「筋道を通す」ことを意味しています。亥は、閡（がい、閉ざすという意味）が語源です。干支の漢字は、何れも草木の成長の様子、現在、どのような状態であるかを一文字で表しています。「己」は、草木が十分に繁茂して盛大となり、しかも、筋道が正しくととのった状態、つまりは、成長の絶頂期を迎えていて、しかも、はっきりとした姿を現しているのです。

「亥」は、「己」のまったく逆の様子を意味しています。草木が枯れてしまっていますが、しかしながら、次の生命力の原動力となる強い力が、閉じ込められている、蓄えられている状態を表しています。今年の干支は、動物では、「猪」が当てられています。猪の習性を皆様、ご存知ですか。猪は、自分の背中を樹木の幹等にこすりつけ、樹液をたっぷりと塗り込みます。さらに、地面に寝転び、その樹液のたっぷりついた背中に砂を付着させます。何回も繰り返すことにより、鎧のように固い背中、矢も立たなくなるような背中をつくる習性があるそうです。「猪突猛進」、猪は、何も考えずに、無鉄砲に突き進むだけかと思っていましたが、備えを万全にして、突っ走っていたわけです。「己亥」の年は、力のみなぎっている、エネルギーに満ち溢れている年まわり、「猪突猛進」といきたいところですが、猪の習性にあやかり、「準備万端」整えた上で物事を進めていきたいものです。

●第一四二号（平成三十一年三月二十日）

遺伝子研究の第一人者である村上和雄先生は、「人間の全遺伝子情報（ゲノム）の差は、ノーベル賞をもらう天才と普通の人とを比べると、僅か〇・五パーセントの差しかない。ゲノムレベルで見れば、人間は九十九・五パーセント同じである」とおっしゃっています。実は、論語にも、「性相近（せいあいちか）し、習（なら）い相遠（あいとお）し」とあります。人の性は生れた時にはあまり差はないが、長じて異なってくるのは、習慣のためであるということです。福沢諭吉さんは、「家庭は習慣の学校である」と「学問のすすめ」に書かれています。村上先生のおっしゃる、〇・五パーセント、論語の「習い」、さらに、福沢諭吉さんのいわれる家庭が、人間の使命や個性をつくり上げているのではないでしょうか。

民俗学者の柳田國男さんは、「敬神は日本人の道徳」だと仰いました。言いかえるならば「敬神は、日本人の習い」ではないでしょうか。

私たちは生きるために必死に毎日を過ごし、様々な困難を乗り越えなくてはなりませんが、そのためには、やはり、知恵をだしあう、創意工夫が必要です。そして、「人事を尽くして天命を待つ」ではありませんが、「神様がお守りくださり、きっとよくなる」という希望という「神信心」を持ち続け、その希望を共有する仲間とのつながりを深めてゆく、その生活こそ、「敬神生活」なのです。「神道というは人々日用の間にあり」、神道は、祭典神事の奉仕だけではなく、日々の暮らしのなかにあるのです。「人々日用」である「感謝、謙虚、工夫、希望」という四Kの「日本人の習い」というべき敬神生活を心掛けたいものです。

●第一四三号（平成三十一年四月二十日）

過日の御即位三十年の記念式典での天皇陛下は「日々国の安寧と人々の幸せを祈り、象徴としていかにあるべきかを考えつつ過ごしてきました。」とお言葉を述べられました。現行憲法の第一条で、「天皇は、日本国と国民統合の象徴」と定められていますが、具体的にどのような御存在なのか明記されていません。　天皇陛下の皇太子時代の家庭教師をつとめられた元慶応義塾塾長の小泉信三さんは、その陛下の象徴としてのお姿を、「モラル・バックボーン（道徳的支柱）」と表現されました。

「神道というは人々日用の間にあり」度会延佳神道は、神事の奉仕だけではなく、日々の暮らしのなかにあると説いているのです。私は、この神道を天皇陛下皇后陛下に置き換えると、天皇皇后両陛下のお姿がはっきりと浮かびあがってくるのではないかと思います。「天皇陛下皇后陛下は人々日用の間におはします」、いうまでもなく、宮中祭祀も、天皇親祭、御自ら御奉仕をされますが、常に国民と国民の暮らしに、お心を寄せられていらっしゃるのです。心から感謝を申し上げ、御譲位が御安泰に執り行われますことをお祈り申し上げます。

仏教詩人の坂村真民さんの詩に、「影あり　仰げば月あり」とあります。影というのは、月があるから見えるのであり、真っ暗闇に影はありません。古の人は、「光」を「かげ」と読ませました。改元までの残り少ない時間を、目には見えない大きな力、日々の暮らしに光を当ててくれる大自然の恵み、さらに、われわれ国民の心に光を与えて頂ける天皇皇后陛下の御存在に感謝をしながら過ごしたいと思います。次の発行は、間違いなく新元号となりますが、輝かしい幕明けとなりますようにお祈り申し上げます。

●第一四四号（令和元年五月三十一日）

天皇陛下におかせられましては、五月一日に践祚され、改元となりました。践祚とは、天皇の御位におつきになることであります。そして、十月には「即位の礼」、国民に広く御即位されたことを宣言される諸儀式が行われます。さらに、十一月には、天皇陛下が御代替り毎に行われる、「大新嘗祭」ともいえる「大嘗祭」が斎行されます。本年は、日本の国にとりまして、最も重要で、大切な重儀が斎行される年となります。私共は、神様から与えられた時間を共有しているのですが、まさに、「天の時」であります。しかも、その時間は、御即位された今上陛下と共有できる新しい元号、「令和」という新しい時間座標軸なのであります。

万葉集巻五に、九州の大宰府で、天平二（七三〇）年正月十三日に開かれた梅花を賞でる宴会において、三十二人の官人たちが詠んだ和歌と、その冒頭に序文が収められています。この文中にある「令」と「和」を組み合わせて「令和」という元号ができたのです。　梅は、中国伝来でありますが、日本各地で、旧暦の一月の春先に花が咲き、何より香りが芳しいのです。　古きより、「梅は寒苦を経て清香を発す」といわれますが、前述の大伴旅人をはじめ三十二人の官人たちは、それぞれの様々な思い、忸怩たる、あるいは、九州に流された無念の思いを抱きつつも、和やかに時をすごしています。その「たゆたふ、ゆらゆらゆらめく様々の思い」と共に、時間が静に流れているのです。私は、「令和」を「雅（みやび）な余裕」ととらえたいと思います。これからも、「雅な余裕」で、「今、ここ」に真心をこめて、心を寄せ合い助け合い、運命共同体としての地域社会が構築されることを願うものです。

●第一四五号（令和元年六月三十日）

「茅の輪（ちのわ）」が奉製（ほうせい）されました。この「茅の輪」の「輪」が、「鏡、正直」、「茅」が、「剣、知恵」、さらに、「蓬」が、「勾玉、慈愛」を表していると考えるのです。実は、「荒魂」「和魂」という神様のお働き、さらに、「三種の神器」の徳目が込められているのです。一回目は左まわり、二回目は右回り、三回目は、もう一度左まわり、この「茅の輪くぐり」をすれば、身も心も清まり、さらに、大事な徳目をも備えられるというわけですから、御霊験あらたかであるのは、間違いございません。

江戸時代に伊勢神道を唱導したといわれる、伊勢の神宮さんの神職であられた度会延佳さんは、「人間は神様から本性を与えられて生れてきたので、その本性を損なうような生き方をしてはいけない」と説かれています。私共は、しらずしらずの内に、清らかな体と心と大事な徳目を見失ってしまいがちです。　先月号にも記述しましたが、節目節目の「落ち着き」こそが、この「夏越の大祓」という神事で、本性を損なわない生き方、幸福への道のりではないでしょうか。新古今和歌集にも、「在りきつつ　来つつ見れども　いさぎよき　人の心を　われ忘れめや」と詠まれています。

永き人生、心の清らかな者が、神の御心に叶い幸せな暮らしをしているようだという意味です。

苦しく将来も見通せないような雲のなかでも、負けずにしっかりと懸命に歩み進んでいけば、抜け出した時に、きっといいことがある、青空を見上げることができるという希望を持ち続ける、これこそ、まさに、「雲外蒼天（うんがいそうてん）」の心意気、「いさぎよき　人の心」、「清々しい生き方」ではないでしょうか。

社務日誌抄

（本宮祭典諸行事厳修報告）
―平成三十一年一月～令和元年十二月―

睦月（一月）

一日　初太鼓　歳旦祭

三日　元始祭

＊天皇陛下御自ら宮中三殿【賢所（かしこどころ）、皇霊殿、神殿】において皇位の始源を祝し親祭あそばされました。当宮においても皇位を祝寿する祭祀を厳修致しました。

十四日　どんど焼き

二十五日　山口県神社庁下関支部総会

如月（二月）

三日　節分祭追儺式

＊悪神邪気、不幸を追い払い、氏子崇敬者の招福と平安な生活を祈念申し上げました。神事終了後は、境内特設花道に於いて福豆・福餅が撒かれ賑わいをみせました。

九日　彦島中学校同期会古希参拝

十一日　紀元祭建国奉祝祭

＊我国の初代天皇である神武天皇が橿原宮で即位された古えを偲び、建国創業の御神徳を景仰し、皇室国家の弥栄を祈念申し上げ、当宮神前を通して橿原神宮を遥拝致しました。

建国記念日奉祝パレード

十七日　祈年祭

＊農耕祭儀の中でも重儀「としごいのまつり」とも言い、本年の五穀豊穣を祈念申し上げる重要農耕祭祀を厳修致しました。

十九日　防衛省海上自衛隊敷設艦むろと艦長以下乗組員昇殿参拝

二十三日　横浜DeNAベイスターズ必勝祈願祭

弥生（三月）

二十一日　春分祭春季祖霊祭

＊家の宗旨が神道の方の合同の先祖慰霊祭。「自然をたたえ、生物をいつくしむ日」という〝春分の日〟の意義を継承し、自然万物に感謝の祈りを捧げる祭儀を斎行致しました。

二十三日　阪神タイガース小野泰己投手必勝祈願祭

卯月（四月）

一日　勧学祭

＊今春めでたく入学されました新一年生の児童生徒の皆様の学業成就・交通安全・無病息災を祈願する新入学奉告祭を月次祭に併せ厳修致しました。

十三日　舟島神社例祭並びに佐々木小次郎剣客祭

＊巌流島の決闘から四百六年。佐々木巌流の正統派流儀の武道和良久による剣舞、正真流吟剣詩舞道の御神楽が奉納されました。

二十一日　彦島地区戦没者慰霊祭

＊日清・日露戦争から大東亜戦争において、国のため郷土のため家族のため国の御盾となり犠牲となられた彦島地区出身の四百五十一柱の御英霊の御前にて慰霊祭を雨儀により斎行致しました。

二十九日　昭和祭

＊激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、我国の将来に思いを馳せ、昭和天皇陛下のご聖徳をお讃え申し上げますとともに、ご皇室の弥栄と国家の繁栄を祈念申し上げました。

皐月（五月）

一日　御即位改元奉告祭

水無月（六月）

二十九日　第一回茅の輪奉製作業

三十日　水無月大祓式

＊カヤとヨモギが神秘的な除災の力を有するという故事に倣い、氏子奉賛会の皆様が奉製した「茅の輪」を潜り、上半期の罪穢れを人形にうつし、祓の神事を厳修致しました。

文月（七月）

十二日　海上自衛隊敷設艦むろと艦長以下自衛官参拝

二十七日　第二回茅の輪奉製作業

二十九日　夏越祭前夜祭・菅抜神事

＊当宮では水無月の大祓に加え夏越の大祓も執行しています。カヤとヨモギで奉製した茅ノ輪を潜り、分魂を宿らせた人形を焚き上げる古式。罪・穢れを祓い清めました。当宮では水無月晦日より一ヶ月の間に計二度奉製致します。

三十日　夏越祭御神幸祭・海上渡御

＊御祭神の御霊を奉じた御神輿が氏子地域を中心に陸上海上を隈なく御神幸致しました。

葉月（八月）

四日　まほろば学級

＊情操教育の一環として彦島地区の小学生を対象に、鎮守の杜で神社の歴史、作法、雅楽体験等々を通して夏休みの思い出として一日を過ごしていただきました。

長月（九月）

十三日　観月会　中秋の名月ソプラノ歌手野々村彩乃さん独唱

二十三日　秋分祭秋季祖霊祭

＊「祖先を敬い、亡くなられた人々を偲ぶ日」という秋分の日にちなみ、日毎ご加護をいただいている祖霊慰めの祭儀を斎行致しました。

＊約百名の参列者のもと日本酒と共に名を愛でながら、日本の風土、豊かな四季を大切にしてきた伝統的な日本人の「こころ」に思いを馳せました。

神無月（十月）

十七日　神嘗奉祝祭

＊伊勢の神宮で新穀が奉られ五穀の豊穣に感謝の祈りが捧げられました。この祭典を奉祝し当宮におきましても厳粛に斎行され、神宮を遥拝致しました。

十九日　秋季例大祭前夜祭

二十日　秋季例大祭本殿祭並びにとこわか奉納会物産品奉献

＊神社本庁より幣帛が奉られ、一年に一度の大御祭が斎行されました。

二十一日　秋季例大祭御神幸祭サイ上り神事

＊当宮創祀者の河野通次を偲び、八六十年伝統の無形民俗文化財指定「サイ上がり神事」も厳かに執り収める事が出来ました。

二十二日　即位礼当日祭

霜月（十一月）

一日　長崎興幹氏菊花懸崖奉納奉告祭

三日　明治祭

＊戦前の明治節にあたり、四大節（四方拝（節）、紀元節、天長節、明治節）の一つです。明治天皇様のご生誕とご聖業を讃えるとともに、皇室の更なるご繁栄を祈願致しました。

十三日　臨時大祓

十四日　大嘗祭当日祭

天皇陛下御即位後最初に斎行あそばされる新嘗祭（にいなめさい）（新＝新穀、嘗＝ご馳走　※神様の恵みにより初穂を戴く事へ感謝する収穫祭）の事であり、御一代一度の皇位継承儀式です。

十五日　七五三祭

＊お子様の成長をご祭神へご奉告し、ますますの健やかな成長を月次祭に併せお祈り申し上げました。

師走（十二月）

八日　大注連縄奉製・煤払式

＊神域と外界とを隔てる拝殿大注連縄の奉製が執行され、本年刈り取って干した稲藁を使用し、青々しい立派な大注連縄が掲げられました。終了後、煤払式を執行し一年間の汚れを掃き清めました。

三十一日　大祓式

＊私たちが日常生活のなかで、知らず知らずに犯してしまった罪穢れを人形（ひとがた）に託して身体を清め、心新たに新年を迎え生活を営むべく心技体を整えます。

新守札清祓式

除夜祭

拝殿 向拝口天井板（大々式）奉納

彦島竹の子島町　冨田　博

平成三十一年 新年御供米料奉献会社ご芳名

【※順不同 敬称略】

- 農水フーヅ㈱
- 下関唐戸魚市場㈱
- ㈱中冷
- 三菱重工業㈱下関造船所
- キャボットジャパン㈱下関工場
- チヨダウーテ㈱下関工場
- ㈲フジタ石油
- ㈲上釜電機商会
- タナカ機工㈲
- ㈱大伸運輸
- 警戒船用船組合
- ㈱彦島造園
- 下関農業協同組合彦島支所
- 青木鉄工㈱
- ㈲岩原クリーニング工業所
- ㈱大庭工務店
- ㈱田原工務店
- ジャパンマリン㈱
- 大田造船㈱
- ㈲百合野
- ㈲ライフクリーニング
- ㈱ユキテクノ
- ㈱サントー
- 古賀産業㈱
- 山口整形外科
- 香洋工業㈱
- 和田電機㈱
- ㈲三宅商店
- テーラーしばた
- 下関酒造㈱
- 西中国信用金庫西山支店
- ㈱山口銀行彦島支店
- ㈲平田工業所
- 三池屋
- ㈱下関ユアサ建材
- 山口県漁業協同組合下関南風泊支店
- 関門三協工業㈱
- ㈲枝村ドラム工業所
- ㈲オカダ工房
- 大久保本店
- ㈱共立機械製作所下関工場
- みなと不動産
- 高保工業㈱
- ㈲植田商会
- ㈲マルイチ彦島醸造工場
- ㈱室田組
- ㈱広洋エレクトリック
- ㈱原工務店
- ㈲ライス&ミルク上村

平成三十一年元旦御接待奉納

- 池田興業㈱下関支店

平成三十一年二月三日 節分祭 御協賛会社御芳名

【※順不同 敬称略】

【設営協賛の部】

▼舞台花道設営
- ㈱瀬戸工業

▼照明設備
- ㈲タツミ電工

【協賛金の部】

- 下関三井化学㈱
- 彦島製錬㈱
- キャボットジャパン㈱下関工場
- オルネクスジャパン㈱下関工場
- 池田興業㈱下関支店
- 三菱重工業㈱下関造船所
- サンセイ㈱下関工場
- ㈲前田造船所
- 日新リフラテック㈱
- 下関唐戸魚市場㈱
- 協立運輸商事㈱
- 西和建工㈱
- アルギン㈱
- ジャパンマリン㈱
- 青木鉄工㈱
- ㈱田原工務店
- ㈱ユキテクノ
- ㈱大田造船
- ㈱大庭工務店
- タナカ機工㈲
- 花のタムラ
- 西京銀行彦島支店
- 西中国信用金庫西山支店
- ㈱山口銀行彦島支店
- ㈱ナカハラプリンテックス

第十四回まほろば学級寄稿感想文

「楽しかったまほろば学級」

下関市立西山小学校　五年　大元　菜緒

八月四日日曜日は、ありがとうございました。楽しかったし、美味しかったです。

私が特に楽しかった事は、という遊びと花火が楽しかったです。魚鳥木が楽しかった理由は、魚鳥木どれが当たるか、どういうものを言おうか二つのドキドキが生まれたからです。花火は、大きい方と小さい方の二つありました。大きい方はいつ「ドーン」と鳴るのがいつか、どんな色なのかドキドキを感じました。小さい方は、パチパチとしているところが楽しかったです。

美味しいものについては、そうめん流しの後に食べた敬神婦人会のおばちゃんたち手作りのおにぎりとたくあんです。おにぎりは、塩の味がきいていて美味しくて、たくあんは、今まで食べた中で一番美味しかったです。このまほろば学級は、楽しいこと、美味しいものもあるし、知らない人、違う学校の人と仲良くしたり、仲を深めたりできるので、とても良い機会でした。

わたしは、よく彦島八幡宮に参拝していますが、参拝したら、とても気持ちがスッキリします。一番大好きなのは、おみくじを引く事です。もし大吉があったらパパに自慢しています。今度ある秋のおみこしを楽しみにしているので、それまで元気にがんばります。

このたびは、本当にありがとうございました。

第二十七回 神社・お祭り 自由画コンテスト入賞者

金　賞
米山　怜果
（西山小学校四年）

特別賞
見常　莉菜
（くりのみ子供園）

特別賞
奥迫　心菜
（しおかぜの里こども園）

※出品作品は全て例祭（秋祭）から十一月まで約一カ月間当宮に掲示致します。毎年彦島地区の小学校・子ども園に夏休み前にご案内させていただいております。奮ってご応募下さい。

敬神婦人会便り

去る十月八日（火）に敬神婦人会三十六名にて会員の親睦と研鑽を踏まえ、恒例の日帰り研修旅行を執行致しました。

此度は太宰府市に鎮座する宝満宮竈門神社へ昇殿参拝させていただくご神縁を賜りました。神社奉護に対して百年後のスタンダードを見据えての境内整備や教化事業には目を見張るものがあり会員一同感銘を受けました。その後、太宰府天満宮、更には元号「令和」所縁の坂本八幡宮へも参拝させていただきました。

奉納グラウンドゴルフ大会優秀者

（於、江浦小学校グラウンド）

★船島神社例祭

四月二十一日（日）

Aグループ
①栢田　正之
②竹村　　功
③岡田　　保
④岩本　勝雄
⑤藤本八重子

Bグループ
①山口富士雄
②堀本三千男
③大古　場章
④梅田　泰敏
⑤西山キミ子

★夏　越　祭

七月二十八日（日）

男性の部
①梅田　泰敏
②堀本三千男
③後藤　貞幸
④大古　場章
⑤岩本　勝雄

女性の部
①藤田　郁子
②岩本　順子
③長谷部嘉代美
④三好真由美
⑤横山美代子

★秋季例大祭

九月二十九日（日）

男性の部
①原　　要
②山口富士雄
③赤川征一郎
④竹村　　巧
⑤花屋　教治

女性の部
①岩本　順子
②横山美代子
③坂本　節子
④吉松　妙子
⑤白岩喜美江

第八回　彦島八幡宮杯争奪ソフトボール大会成績

十一月十日（日）

★第一部

優　勝　チームZERO
準優勝　彦島うま球クラブ
三　位　レッドブル下関
最優秀選手
佐貫　達哉（チームZERO）

★第二部

優　勝　ハッピー&ブルー
準優勝　ライジング
三　位　奇兵隊
最優秀選手
尾ノ上俊斗（ハッピー&ブルー）

海上自衛隊とのご神縁（しんえん）

当宮は、かつて「灘八幡（なだはちまん）」と称えられ、海上を往き交う船が半帆の礼をとった歴史があり、今日まで海上関係者に篤く崇敬されています。ことに、海上自衛隊の自衛官の皆様方に、年間を通じ下関に寄港された折はご参拝いただいております。その際に奉納されました各艦種の写真額をご紹介致します。写真額は拝殿に掲示しておりますので、ご参拝の折にご拝観下さい。

法の整備が未だに不十分、且つ又内憂外患の情勢のさなか、国家安全の大役を担う防人として、日夜我が国周辺の警戒監視活動や災害派遣活動などの任務遂行にあたられています。我々国民も、我が国の安全保障や防衛に対する理解や認識を、今日深めていく意識改革が必要かと存じます。

当宮では、多くの自衛官の皆様方とのご神縁を大切にしつつ、日毎に国家安寧と安全な任務遂行をお祈り申し上げております。

彦島神社巡り

「七里（なな）七浦（りななうら）七恵美須（えびす）」の七の縁起を担ぐ彦島の御社に参拝してみませんか？各社のご朱印は全て彦島八幡宮社務所でお受けできます。

彦島八幡宮　検索

安産祈願祭・腹帯清祓のご案内

彦島八幡宮は別名『子安八幡（こやすはちまん）』とも称され、安産の神様としても崇められ、県内外よりご参拝いただきます。ご持参頂いた腹帯（マタニティガードル）に当宮の「安産守護」の御朱印を押印させていただきます。

＊令和二年の戌の日

1月 8日(水)	先勝
20日(月)	先勝
2月 1日(土)	友引
13日(木)	友引
25日(火)	先負
3月 8日(日)	先負
20日(金)春分	先負
4月 1日(水)	大安
13日(月)	大安
25日(土)	赤口
5月 7日(木)	赤口
19日(火)	赤口
31日(日)	赤口
6月12日(金)	赤口
24日(水)	友引
7月 6日(月)	友引
18日(土)	友引
30日(木)	先負
8月11日(火)	先負
23日(日)	大安
9月 4日(金)	大安
16日(水)	大安
28日(月)	先勝
10月10日(土)	先勝
22日(木)	友引
11月 3日(火)	友引
15日(日)	仏滅
27日(金)	仏滅
12月 9日(水)	仏滅
21日(月)	大安

★お子様の命名書、宮司が浄書致します。
お気軽に社務所迄お申し出ください。
授与された命名の掛け軸をご持参下さい。
お持ちでない方も、半紙や色紙等に謹筆致します。

奇跡を発動する神宿る磐座（いわくら）
彦島八幡宮ペトログリ（ラ）フ

当宮には古代文字（シュメール文字）が刻銘された巨岩が奉安され、全国各地より著名人や芸能人、また難病や病気療養中で悩んでおられる方、心願成就のお祈りをされる方々が拝観参拝のため訪れます。自然崇拝にもとづく神宿る聖なる磐に神様を感じ、神様の威大なる力を戴かれて下さい。

近年は『叶い石御守（かないいしみまもり）』をお受けいただき、磐の上に置き祈りを捧げ願いを込める方々も多く見受けられます。

※詳細は当宮ホームページをご参照下さい。

八幡宮の文化財紹介
曽畑式土器片（そばたしきどきへん）

※櫛歯状の施文具で幾何学的文様を施した櫛目文土器に類似しており、粘土に滑石を混ぜた土器が特徴である。

昭和三十三年八月に、山口大学考古学小野教授（当時）により境内一帯にあたる宮の原遺跡が発見され、縄文前期後期の土器や石族、石斧、石錘、石砥等三千余点が出土し、古代人の居住が確認されました。昭和三十四年に大規模な発掘調査が行われ、「曾畑式土器」が多く出土し、その一部が保管してあります。現在、出土した土器類の多くは長府博物館に委託収蔵されています。

二〇二〇 東京オリンピック・パラリンピック開催記念特集

来る七月二十四日、今上陛下の開会宣言に始まり、八月九日迄十七日間開催されます第三十二回オリンピック競技大会（パラリンピックは八月二十五日～九月六日）の佳節にあたり、郷土 彦島出身の五輪メダリストを紹介致します。東京オリンピック・パラリンピックのご成功と選手の皆様のご活躍を只管に祈念申し上げます。

西山将士さん（現、日本製鉄）

開催都市　ロンドンオリンピック
開催年　平成二十四年（二〇一二）
獲得競技　柔道九十kg級
（三位決定戦＝キリル・ポプロソフ選手【ロシア】に勝利）
獲得メダル　銅メダル

写真提供：西山将士

御神木 弓立の松に必勝を！

楼門下の由緒板の後方に仲哀天皇様の御弓が立てかられた弓立の松（古株より二代目）があります。その弓をもって武運必勝を祈願し熊襲平定を成しえた故事に肖って、スポーツ選手や老若男女多くの運動競技者がお手に触れ、一戦必勝や運動上達を願いつつ、霊験あらたかな神秘なる力をいただかれます。ご参拝の折に御拝観下さい。

令和２年（庚子（かのえね））厄年・年祝表

（年祝）

上寿祝	大正10年生（100歳）	数え年100歳のお祝い。
白寿祝	大正11年生（99歳）	百から上の一を取ると白になり、数で云えば99である。
卒寿祝	昭和 6年生（90歳）	卒は略字で卆と書き九十と読む。
米寿祝	昭和 8年生（88歳）	米は字をわけると八十八となる。
傘寿祝	昭和16年生（80歳）	傘は略字で𠆢十と書き八十と読む。
喜寿祝	昭和19年生（77歳）	喜は草書で𡚁と書き七十七と読む。
古稀祝	昭和26年生（70歳）	「人生七十古来稀なり」の漢詩にもとづく。
還暦祝	昭和35年生（61歳）	干支が丁度一巡し、誕生の年と同じになるので本卦返りともいう。

※節分祭（2月3日）までに厄払いをお受けしましょう。

（厄年）

性別	年齢	前厄	本厄	後厄
男	25歳	平成 9年生（24歳）うし	平成 8年生（25歳）ねずみ	平成 7年生（26歳）いのしし
	42歳	昭和55年生（41歳）さる	昭和54年生（42歳）ひつじ	昭和53年生（43歳）うま
	61歳	昭和36年生（60歳）うし	昭和35年生（61歳）ねずみ	昭和34年生（62歳）いのしし
女	19歳	平成15年生（18歳）ひつじ	平成14年生（19歳）うま	平成13年生（20歳）へび
	33歳	昭和64年生 平成元年（32歳）へび	昭和63年生（33歳）たつ	昭和62年生（34歳）うさぎ
	37歳	昭和60年生（36歳）うし	昭和59年生（37歳）ねずみ	昭和58年生（38歳）いのしし

（八方塞（はっぽうふさ）がり）

皆様一人一人の生年月日により九つの星“九星”に区分され星回りが存在します。中央を基点に、北、北東、東、南東、南、南西、西、北西の方角をめぐり、九年に一度中央に入ります。これが八つの星（方位）に囲まれた状態である**八方塞がり**です。
不安定な年とされ、より注意をしなくてはならいない年です。
八方除けの祈願や方位除けの御守をお受けになられ、御神慮を恐み慎む事をお勧め申し上げます。

本年は**七赤金星（しちせききんせい）**の方が該当致します。（＊以下に表記）
昭和5年、昭和14年、昭和23年、昭和32年、昭和41年、昭和50年、昭和59年
平成5年、平成14年、平成23年

（金神（こんじん）様の方位）

本年は以下の四方位が凶方位となります。引っ越し、旅行、転勤等々留意しなければなりません。

巡金神	辰・巳（南西）	大金神	酉（西）	姫金神	卯（東）

（七五三祝）

髪置祝	平成30年生の男女（3歳）	髪を伸ばし整え始めること。
袴着祝	平成28年生の男子（5歳）	男の子が初めて袴をはき始める年齢。
帯解祝	平成26年生の女子（7歳）	女の子が今までの紐付着物から帯を締める大人の着物に替える年齢。

祈願祭（お祓い）は数え年でお受けしましょう。

「数え年」は、生まれた時点を1歳とし、新年を迎える度に1歳加えて行きます。
これは、正月に各家を訪れる年神様から1つ年を頂くというありがたい意味があります。
満年齢に誕生日前であれば2歳、誕生日を迎えた後は1歳を加える解釈となります。

彦島八幡宮 オリジナル御朱印帳

社務所にて頒布致しております。
（タテ十六㎝／ヨコ十一㎝）
彦島地区（巌流島含む）に鎮座致します全ての神社の御朱印も当宮にて押印致します。

本年の天赦日（てんしゃびてんしゃにち）

一月二十二日（水）・二月五日（水）・四月五日（日）・六月二十日（土）・九月二日（水）・十一月一日（日）・十一月十七日（火）

＊天赦日とは、日本国の暦上、最良大吉日といわれており、「天が万物の罪を赦（ゆる）す日」とされ、古来より何事をするにおいても、よいと伝承されています。

発行所　彦島八幡宮社務所
下関市彦島迫町五丁目十二番九号
TEL〇八三―二六六―〇七〇〇
FAX〇八三―二六六―五九一一
ホームページ http://www.hikoshima-guu.net
発行者　柴田宜夫
題字　山本光徳
編集者
令和二年一月一日
印刷・㈱ナカハラプリンテックス

彦島八幡宮　検索